

中学校教科用図書選定に必要な資料（令和2年度作成）

— 中 学 校 —

「選定に必要な資料」の活用について

国語	1
書写	9
社会（地理的分野）	17
社会（歴史的分野）	26
社会（公民的分野）	35
地図	43
数学	49
理科	60
音楽（一般）（器楽合奏）	69
美術	76
保健体育	83
技術・家庭（技術分野）	91
技術・家庭（家庭分野）	98
英語	105
道徳	115
参考資料	126

「選定に必要な資料」は、いずれの種目（教科）においても、次の4つから構成されている。

- ① 観 点 の 内 容：「観点」「観点のための研究調査事項」「指導についての留意事項」を示したもの
- ② 調 査 方 法：カウントした内容・項目について説明したもの
- ③ 調 査 結 果：「観点のための研究調査事項」について○印を入れて示したもの
- ④ 選 定 の た め の 参 考：各発行者の特長を総合的に文章表記したもの

中学校教科用図書「選定に必要な資料」の活用について

滋賀県教育委員会

1 「選定に必要な資料」作成にあたっての基本的な考え方

- (1) 「選定に必要な資料」を作成するにあたっては、文部科学省の指導通知にもとづき、各採択権者において、より参考となるよう内容の一層の工夫・充実を図った。
- (2) 研究調査については、種目（教科）ごとに学習指導要領に示された目標を達成するための観点を中心として、「観点」「観点のための研究調査事項」「指導についての留意事項」を設定し、客観性を重視した。
- (3) 「観点のための研究調査事項」については、種目（教科）ごとに各発行者の特長を○印で示した「**調査結果**」を作成した。他の教科書との比較の上、その教科書で重きを置いている研究調査事項の3つに○印を付した。
- (4) 「**選定のための参考**」については、「**調査結果**」をもとに、種目（教科）ごとに特長を総合的に文章表記した。

2 「選定に必要な資料」活用にあたっての留意事項

- (1) 「**選定のための参考**」を熟読し、調査研究に活用すること。
- (2) 「**調査結果**」の○印のみに注目することなく、総合的に研究調査をすること。
 - ① 「**調査結果**」の○印と併せて、教科書での取扱い・取り上げ方についても、十分調査研究をすること。
 - ② 「**調査結果**」の元資料として、観点のための研究調査事項について、項目数やページ数をカウントして作成した「**調査結果（数値）**」を、参考までに資料の最後に添付している。
- (3) 「研究調査事項」については、「指導についての留意事項」で示した内容をふまえて研究調査に活用すること。
- (4) 「**調査方法**」については、種目（教科）ごとに示しているので、「**調査結果**」を見る際の参考にすること。

国語

東京書籍

三省堂

教育出版社

光村図書

観点の内容

国語科 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の特徴や使い方に関する事項を取り上げている箇所数 ・ 情報の扱い方に関する事項を取り上げている箇所数 ・ 我が国の言語文化に関する事項を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の働きや語感を磨き語彙を豊かにすること、話や文章に含まれている情報の扱い方に関することを身に付けること、また、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることなどについて指導するよう留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話したり聞いたりする活動や話し合う活動を取り上げ、「話すこと・聞くこと」の学習過程を明確に示している箇所数 ・ 説明的な文章や実用的な文章、文学的な文章を書く活動を取り上げ、「書くこと」に関する学習過程を明確に示している箇所数 ・ 説明的な文章、文学的な文章、本などから情報を得て活用する活動を取り上げ、「読むこと」の学習過程を明確に示している箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の学習過程に共通して示された「話題の設定、情報の収集、内容の検討」に関する指導事項や目的や場面に応じて、必然性をもって学習を進めるように留意する。 ・ 「書くこと」の学習過程が一層明確に整理され、「題材の設定、情報の収集、内容の検討、構成の検討、考えの形成、記述、推敲、共有」となった。文章を読み合う上で、特に「共有」の指導事項に留意する。 ・ 「読むこと」の学習過程が「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成、共有」の三つで示された。「読むこと」領域においては、[知識及び技能]の「読書」に関する事項との関連に留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に記載してある言語活動例が示されている箇所数 ・ 国語科の学習が読書活動に結び付いている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科及び学年の目標において挙げられている態度等を養い、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成が一層充実するように留意する。 ・ 自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うように留意する。

調査方法

種目名【 国語 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p style="text-align: center;">知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方に関する事項を取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 相手の行動を促す働きについての記載、話し言葉と書き言葉、事象や行為・心情を表す語句、辞書的な意味と文脈上の意味との関係に関する箇所、類義語、対義語、同音異義語、多義的な意味を表す語句、慣用句、四字熟語、和語、漢語、外来語に関する箇所 ・情報の扱い方に関する事項を取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 原因と結果、意見と根拠、具体と抽象という情報の関係に関する箇所、分類、関係付け、引用、出典に関する箇所、情報の信頼性の確かめ方に関する箇所 ・我が国の言語文化に関する事項を取り上げている箇所数について調査を行った。 例) 古典、言葉の由来や変化、共通語と方言に関する箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p style="text-align: center;">思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話したり聞いたりする活動や話し合う活動を取り上げ、「話すこと・聞くこと」の学習過程を明確に示している箇所数について調査を行った。 例) 話題の設定や情報の収集、内容の検討に関する箇所 ・説明的な文章や実用的な文章、文学的な文章を書く活動を取り上げ、「書くこと」に関する学習過程を明確に示している箇所数について調査を行った。 例) 「題材の設定、情報の収集、内容の検討、構成の検討、考えの形成、記述、推敲、共有」に関する箇所 ・説明的な文章、文学的な文章、本などから情報を得て活用する活動を取り上げ、「読むこと」の学習過程を明確に示している箇所数について調査を行った。 例) 「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成、共有」に関する箇所
<p style="text-align: center;">C</p> <p style="text-align: center;">学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に記載してある言語活動例が示されている箇所数について調査を行った。 例) 紹介、報告、質問、助言、評価、議論、討論、記録、案内、詩・短歌・俳句・物語・随筆などの創作、手紙、電子メールに関する箇所 ・国語科の学習が読書活動に結び付いている箇所数について調査を行った。 例) 進んで読書をすること、読書を生活に役立てること、読書を通して自己を向上させることに関する箇所 ※新聞、雑誌を読んだり、調べるための資料を読んだりすることを含む。

調査結果

国語

		観点A			観点B			観点C	
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項	発行者	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報 の扱い 方に関 する事 項を取 り上げ ている 箇所数	我が国 の言語 文化に 関する 事項を 取り上 げている 箇所数	話し たり聞 いたり する活 動や話 すこと の学習 過程を 明確に 示してい る箇所 数	学理的 な文章 や実用 的な文 章、文 程を明 確に示 してい る箇所 数	説明的 な文章 、文学 的な文 章、本 文など から情 報を得 て活用 する活 動を取 り上げ 、「読む こと」 の学習 過程を 明確に 示してい る箇所 数	学習指 導要領 に記載 されて いる箇 所数	国語科 の学習 が読書 活動に 結び付 いている 箇所数
		東京書籍	1年生	○	○		○		
2年生	○				○	○			
3年生	○			○				○	
三省堂	1年生		○			○	○		
	2年生					○	○		○
	3年生			○			○	○	
教育出版	1年生	○	○	○					
	2年生	○					○	○	
	3年生	○	○					○	
光村図書	1年生			○				○	○
	2年生			○	○				○
	3年生		○		○				○

種目名 国語	発行者名	東京書籍
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の扱い方に関する事項では、整理する力、分析する力、議論する力、解釈する力、表現する力、伝え合う力という項目を立て、それぞれについて「学びを支える言葉の力」として巻末にまとめられている。これにより、各項目について系統立てて学習することができ、整理して捉えることができる。 ・言葉の特徴や使い方に関する事項では「他教科で学ぶ漢字」として教科横断的な言語の学習をすることができる。また、各学年ともに「扉の詩」「扉の短歌」「扉の俳句」として、日本言語文化に関する内容を紹介しており、学習段階に応じて生徒の興味関心をひくように工夫されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの扉」では日常の場面から出てくる課題が漫画で示されており、それを導入として基礎編「学びを支える言葉の力」で深く学ぶことができる。 ・目標を意識して「読むこと」の観点では「てびき」、「書くこと」「話すこと・聞くこと」の観点では「学習の手順」が示されており、考えを深めることができる。 ・「話すこと・聞くこと」の観点が充実しており、完成作品例だけでなく途中段階の具体例なども示されているので、活動に取り組むときの参考にすることができる。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域全てにおいて、言語活動が取り入れられている。「話すこと・聞くこと」の題材としては、日常生活を意識したものが設定されており、生徒の興味・関心を促すように工夫されている。 ・読み物教材には、各教材に「てびき」が掲載されており、学習を進める中で、自分の考えを書いたり、話し合ったりする言語活動が取り入れられている。 	

種目名 国語	発行者名	三省堂
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「集めた情報を分類して整理する」という教材があり、また、資料編には「情報探しの方法」「引用と著作権」「メモを活用する」がまとめられており、様々な場面で資料の収集・整理・活用ができるようになっている。 ・古典教材に関連した説明文があり、日本独自の文化を学ぶことができ、古典教材も厳選されており、「和歌の技法」や三大和歌集の特徴が詳しくまとめられている。また、資料編に「能・狂言の世界」があり、古典特有の言い回しや日本文化芸能を学習することができる。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の観点が充実している。「学びの道しるべ」では、見通しから振り返りまでの手順が示されており、「学びを広げる」で自主学習にも対応した課題なども設定されている。 ・一つの読み物教材を学んだあと、「読み方を学ぼう」という項目があり、直前の教材を例に読み方を図解している。それをもとに他教材、他教科での学習、日常の読書などに活用することができる。 ・「表現プラザ」では、随筆を創作したり、変わり身の上話を作ったりして、自分の考えを表現する活動に取り組めるようになっている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材の末尾に、「私の本棚」として教材に関連した作品を3冊ずつ紹介している。また、巻末の「小さな図書館」では、6つのテーマに分けて図書を紹介している。 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域全てにおいて、言語活動が取り入れられ、「読むこと」の領域では、「学びの道しるべ」で、自分の考えをまとめたり、話し合ったりする言語活動が設定されている。 	

種目名 国語	発行者名	教育出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の学習として「漢字の広場」が設けられており、漢字学習がしやすいように工夫されている。また、言葉について「文法・言葉の小窓」と巻末の「解説編」で詳しく説明されていたり、「表現に役立つ言葉」がまとめられていたりするため、学習しやすくなっている。 ・「四季のたより」には歌人の歌が紹介されており、言語文化に触れるように工夫されている。また、1年生の古典教材で「箱に入った桃太郎」を取り上げ、初めての古典学習に興味・関心をもたせるように工夫されている。さらに、巻末に「百人一首」の記載もある。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の観点が充実している。「持続可能な未来を創るために」という教材では、国連の「持続可能な開発目標」と深く関係する17の目標に関連した読み物が掲載されており、自分の考えを形成する足掛かりとなっている。 ・それぞれの教材の前に「学びナビ」があり、導入として作品を読むポイントが示されている。また、「こう読み深めよう」という項目では、詩の題名を比喩や象徴という視点から考えるなど、読みを深めるポイントも示されている。 ・「学びのチャレンジ」では、様々な文章や資料を読んで、思考力・判断力・表現力を高める総合的な問題が設けられている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域全てにおいて、言語活動が設定されており、生徒の言語活動を充実させるように工夫されている。 ・読み物教材については、各教材に「みちしるべ」という学習の手引きがあり、自分の考えをまとめたり、伝え合ったりする言語活動が取り入れられている。 	

種目名 国語	発行者名	光村図書
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生の古典の学習のはじめに、3年間で学習する古典教材が明示しており、見通しをもって学習することができる。また、「季節のしおり」として日本独自の作品が紹介されており、語感を磨き、語彙を豊かにすることができるように工夫されている。 ・ 3年生でインターネットやA I、新聞記事の比較など、身近にある情報に関する分野の内容を多く扱っている。また、「情報整理のレッスン」として発想を広げたり、情報を整理したりする方法がまとめられている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「話すこと・聞くこと」の観点が充実しており、どの学年にも「聞き上手になろう」の項目があるなど、3年間で段階的にレベルアップし、系統性のある学習をすることができるように工夫されている。 ・ 「思考を広げる」「思考を整理する」「思考を深める」として、思考を視覚化したり、マッピングで広げたりと、様々な思考法を使って課題を解決する項目がある。 ・ 「学習の窓」では、学習を通して身に付ける力のポイントを具体的に示している。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み物教材の末尾の「広がる読書」や「本の世界を広げよう」では、図書を紹介し、「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」では、読書に親しむ姿勢を育むように工夫されている。 ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域全てにおいて、言語活動が取り入れられている。教材には、日常生活に関連した題材を多く取り上げている。 	

書 写

東 京 書 籍

三 省 堂

教 育 出 版

光 村 図 書

観点の内容

国語科 書写 目標

- (1) 文字を正しく整えて速く書くことができる。
- (2) 書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる。
- (3) 硬筆による書写の能力の基礎を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 字形、文字の大きさ、配列の例示の箇所数 ・ 楷書や行書の書き方についての注意例の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楷書と行書や漢字とかなとの関連的な指導を工夫し、目的や必要に応じた書き方を判断したり効果的に文字を書いたりできるように留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手本となっている文字の数 ・ 手本に関わる例示の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導により、硬筆による書写の能力の基礎を養うように留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書写の能力を生かす様々な場面（模造紙にまとめる、手紙を書くなど）の紹介例の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書写の学習で身に付けた資質・能力を、各教科等の学習や生活の様々な場面で積極的に生かすように留意する。

調査方法

種目名【 書写 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・字形、文字の大きさ、配列の例示の箇所数について調査を行った。 例) 字形、文字の中心、字間、かなと漢字の調和の注意点などの箇所 ・楷書や行書の書き方に関する注意例の箇所数について調査を行った。 例) 筆脈、点画の形や方向、筆順等の比較による留意点に関する記述箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書、行書の手本の数について調査を行った。 ・手本から確認する事項や留意点、特徴についての箇所数について調査を行った。 例) 実際に字を書くときの、点画、筆順等の留意点に関する記述箇所
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて効果的に書くなど、様々な場面の紹介例の箇所数について調査を行った。 例) 手紙を書く、作品を作る、メモをする、ポスターやレポートにまとめる、新聞やリーフレットで発信する、掲示する等、日常生活に生かすための記述箇所

調査結果

書写

	観点A		観点B		観点C
	知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等
研究調査事項 発行者	の字 箇形、 数文字の 大きさ、 配列の 例示	楷書や 行書の 書き方 についての 注	手本と なっている 文字の数	手本に 関わる 例示の 箇所数	な（書 模写の 造紙に 力を 生かす 様々な 場面 での） 紹介 例の 箇所 数 手紙 を書 く
東京書籍		○		○	○
三省堂		○	○	○	
教育出版	○		○	○	
光村図書	○	○			○

種目名 書写	発行者名	東京書籍
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楷書と行書の使い分けについて、また、点画の書き方や字形、仮名の書き方、書く動き、配列など書写で学ぶことを「書写のかぎ」として系統立てて示している。例えば、配列の整え方について、学習事項や既習事項としてインデックスで示し、何を学んでいるのか生徒が見てすぐに分かるように工夫されている。 ・ 1年生では、行書の動きをパターン化し、「四つの動き」として分かりやすく示している。2年生の行書の学習の中でも、「四つの動き」が丸で囲んで示され、学んだことを次の学年に生かせるように工夫されている。 ・ 単元の最後に「まとめ」のページがあり、学習事項を振り返ることができるようになっている。「書写テストに挑戦しよう」を設け、知識の定着と学力の向上が図れるようになっている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楷書の書き方について、ノート書き方の二つの例を示して文字の大きさと配列について気づかせたり、ポイントを意識できていない例を示すことで、字形と配列を整える書き方に気づかせたりできるように工夫されている。 ・ 「見つけよう」で生徒の学習意欲を引き立て、「書写のかぎ」で学び、「生かそう」で理解が深まるように工夫されており、手本で学んだことを他にも生かすことができるよう書き込み欄が設けられている。 ・ 毛筆では、手本は見開きの左側、点画・筆順の留意点などは右側に固定して配置されており、見やすいように工夫されている。また、毛筆の手本の半紙の部分には他の要素を入れず、紙面全体に使用する色の数を押さえるなど、生徒の集中を妨げないように工夫されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「生活に広げよう」では、ノートやメモ、手紙、本のポップ、パンフレットなどの作品例を紹介し、場面に応じた書き方や筆記具が示されており、書写で身に付けた知識・技能が他教科の学習や特別活動などで生かせるように工夫されている。 ・ 巻末の「書写活用ブック」では、原稿用紙の使い方やレポートの書き方、新聞の書き方など、様々な場面での書き方が紹介され、実生活で生かせるように工夫されている。 ・ 「文字のいずみ」では、古文をなぞり書きする活動や、文字の成り立ちと移り変わり、伝統的な用具・用材、世界の文字などに関するコラムを数多く掲載し、我が国の伝統的な言語文化や世界の文字文化に親しめるようになっている。 	

種目名	書写	発行者名	三省堂
観点	選 定 の た め の 参 考		
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・字形の整え方と筆使い、点画、配列など、どのようなところに気をつけて書けばよいのかを具体的な字形例とともに「書き方を学ぼう」として示されている。また、巻末に全ての「書き方を学ぼう」が楷書と行書に分けて一覧としてまとめられている。 ・行書の隣に楷書を並べて例示することで、違いやポイントになる部分が分かりやすくなっている。例えば、「楷書に調和する仮名」と「行書に調和する仮名」を並べて提示することで、「行書に調和する仮名は、流れるように書いて筆脈を意識する。」ことが見て分かるようになっている。 ・毛筆学習の後には、硬筆で確かめる「書いて身につけよう」を設け、学習内容の定着を図ったり、他の文字に応用したりできるように工夫されている。 		
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・手本が大小に関わらず豊富で、行書と楷書の両方が示されており、違いを考えられるようになっている。 ・毛筆では、手本は見開きの左側、点画・筆順の留意点などは右側に固定して配置されており、分かりやすくなっている。また、巻末資料には毛筆補充教材として手本がまとめて例示されている。硬筆の手本は上に、書き込み欄は下に配置し、利き手に関わらず手本を見て書けるように配慮されている。 ・二次元コードを読み込むと動画を見ることができ、姿勢と構え方、筆や鉛筆の持ち方など、書写の基本動作を確認することができるようになっている。 		
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・「やってみよう」では、新聞、情報誌などの作品例を紹介し、書写で身に付けた知識・技能が他教科に生かせるように工夫されている。 ・3年生では、「身のまわりの文字」として現代まで続く文字の歴史や文化を取り上げるとともに、文字に関わる仕事をしている人物を紹介し、文字文化の豊かさに親しめるようになっている。 ・巻末に「日常の書式」、「書写の広場」が「資料編」としてまとめられており、便箋や封筒の書き方、はがきの書き方など日常生活で生かせるように紹介されている。 		

種目名 書写	発行者名	教育出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生では、行書の筆使いについて分かりやすい言葉で丁寧に説明し、行書の基礎的な書き方を理解できるように工夫されている。例えば、「連続」や「変化」「省略」「筆順の変化」など、行書を書くときのポイントとなる言葉が手本に示されていて分かりやすくなっている。 ・ 毛筆で学習したことが、硬筆で生かせるような教材の構成になっている。巻末に「書写テストで確認」が配置され、3年間の学びが確認できるように工夫されている。 ・ 半紙形を維持した紙面によって、書き始めの位置や字形の整え方、文字の大きさと余白のとり方などが、より実感できるように工夫されている。中心線や中心点を入れ、生徒たちに意識させたいところが見て分かるように示されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手本が豊富で、筆の動きを矢印で表すとともに、筆圧も図で表し、丁寧に説明されている。また、巻末に実物大の書き初めの手本が例示されている。 ・ 毛筆では、手本は見開きの右側、点画・筆順の留意点等は左側に固定して配置されており、朱筆の手本には筆順が細かく示されている。また、とめ、払いなど注意すべき箇所については、筆の絵を用いて説明が加えられており、イメージしやすいように工夫されている。 ・ 文学作品をなぞり書きする箇所が豊富に掲載され、国語科の学習に生かすことができるようになっている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「コラム」では、「文字の変遷」や「季節の行事と書写」など、我が国の伝統的な言語文化に親しめるようになっている。 ・ 「学習を生かして書く」が単元のまとめとして配置されている。学習の復習だけでなく、レポートや手紙、新聞の書き方など他教科の学習に生かせるように工夫されている。 ・ ノートの書き方や立て看板、クラス旗など学校生活の中で生かせるよう、多岐にわたって紹介されている。 	

種目名 書写	発行者名	光村図書
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を分解し、点や画でできていることを分かりやすく示すとともに、点や画がどのようなものなのか生徒たちが理解しやすいように工夫されている。 ・「考えよう」で、楷書と行書の違いなどを見つけ、「確かめよう」で部分的に詳しく説明するなど定着を図るための工夫がされている。また、「書写ブック」が切り離して使えるようになっており、毛筆で学習したことが硬筆でも生かせるように工夫されている。 ・全教材に始筆、送筆、終筆、筆圧、筆使い、配列など学習のポイントがひと目で分かる「学習の窓」を設け、他の文字を書く時にも活用できる基礎・基本・原理・原則が明確に示されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・半紙と同じ大きさの手本が横向きに配置されている。別のページには、同じ手本の縦向き配置が示されている。また、手本の横にその学習でポイントとなる部分が赤で小さく示されていて、生徒たちが気をつけるポイントが分かりやすいように工夫されている。 ・毛筆の手本の各ページに二次元コードが配置されており、各文字の筆使いを見ることができ、自学自習できるように工夫されている。 ・文学作品をなぞり書きする手本などが掲載された「書写ブック」を取り外して、国語科の学習でも活用できるように工夫されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙、はがき、入学願書、送り状などが「日常に役立つ書式」としてまとめられており、実生活に生かせるように工夫されている。別冊の書写ブックの中の、はがき大の用紙は、切り取って実際に送ることができるようになっている。 ・「コラム」で、文字の歴史や古文を掲載し、伝統的な言語文化に親しめるようになっている。 ・壁新聞作りや、目標を書く、年賀状を書く活動などが、書写で身に付けた知識・技能を使って、日常のどのような場面で生かされるのかが目次に示されていて、分かりやすくなっている。 	

社 会

(地理的分野)

(歴史的分野)

(公民的分野)

観点の内容

社会科 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識について理解させるための学習内容の箇所数 ・ 調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける学習内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単に知識を身に付けることではなく、基礎的・基本的な知識を確実に習得しながら、既得の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識として獲得するよう留意する。 ・ 小学校の社会科での学習を踏まえるとともに、高等学校の地理歴史科、公民科での学習を視野に、中学校社会科の学習において生徒が身に付けることが目指される技能を繰り返し活用し、その習熟を図るよう留意する。
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する学習内容の箇所数 ・ 社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする学習内容の箇所数 ・ 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習対象としている社会的事象自体が様々な側面をもつ「多面性」と、社会的事象を様々な角度から捉える「多角性」とを踏まえて考察するよう留意する。 ・ 現実社会において生徒を取り巻く多種多様な課題に対して、「それをどのように捉えるのか」、「それとどのように関わるのか」、「それにどのように働きかけるのか」といったことを問う中で、それらの課題の解決に向けて自分の意見や考えをまとめることができるよう留意する。 ・ 考察、構想（選択・判断）したことを、資料等を適切に用いて論理的に示したり、その示されたことを根拠に自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を発展させたり、合意形成に向かおうとしたりするよう留意する。
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする学習内容の箇所数 ・ 社会的事象について、多面的・多角的な考察や深く理解させるための学習内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象について主体的に調べ分かつようとして学習上の課題を意欲的に解決しようとする態度や、よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想（選択・判断）したことを社会生活に生かそうとする態度を養うよう留意する。

調査方法

種目名【 社会 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識について理解させるための学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「中世」や「近世」といった時代の特色を踏まえた学習内容の箇所 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「中世の日本」を大観するなど、自分の言葉で表現する学習内容の箇所
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「他地域とのつながり」などを踏まえた学習内容の箇所 ・社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「環境問題」などを踏まえた学習内容の箇所 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「雨温図」を用いて気候の特色を捉えるなどの学習内容の箇所
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「持続可能な社会」の実現を目指そうとするなどの学習内容の箇所 ・社会的事象について、多面的・多角的な考察や深く理解させるための学習内容の箇所数について調査を行った。 例) 「対立と合意」に着目して考察しようとするなどの学習場面の箇所

社会（地理的分野）

東京書籍

教育出版

帝国書院

日本文教出版

調査結果

社会(地)

	観点A		観点B			観点C	
	知識及び技能		思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項 発行者	学習内容の箇所数 活用できる理解のための 知識について概念を 社会における様々な場 活用にできる概念を 社会における様々な場 活用できる理解のための 知識について概念を	調査や資料から様々な 効果的に調べた情報を 効果的に調べた情報を 調査や資料から様々な 効果的に調べた情報を	社会的な事象の多面的・多 角的な事象の多面的・多 角的な事象の多面的・多 角的な事象の多面的・多	社会に選ばれる課題の解 決に向けての学習 社会に選ばれる課題の解 決に向けての学習	思考・判断したことを説 明したりする 思考・判断したことを説 明したりする	社会的な事象について、 よりよい 社会的な事象について、 よりよい	多面的な事象について、 多面的な事象について、 多面的な事象について、 多面的な事象について、
東京書籍	○	○					○
教育出版	○		○			○	
帝国書院	○			○	○		
日本文教出版			○		○		○

種目名 社会 (地理的分野)	発行者名	東京書籍
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「チェック」と「トライ」では、学習課題を提示することで、学習内容が確実に定着するよう工夫されている。 ・思考の整理に適した多様な思考ツールを紹介し、課題解決のための単元のまとめ方を例示している。 ・単元のまとめでは、探究課題を解決するヒントを示し、様々な情報を効果的にまとめられるように工夫している。 ・随所に「スキルアップ」「集める」「読み取る」「まとめる」が設定され、諸資料を読み取ったり、まとめたり、活用したりすることができる。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のまとめである「みんなでチャレンジ」では、グループ学習などを通して多面的・多角的に考察することのできる課題追究の具体例を示している。 ・「トライ」や「見方・考え方」では、学習したことを説明する活動を通して地理的な見方・考え方を働かせて考えられるよう工夫されている。 ・単元ごとに「探究課題を解決しよう」というコーナーが設けられており、「どのような」や「なぜ」と問うことで、思考を深めさせる工夫がされている。 ・随所に「考える」場面が設定され、理由を予想させたり、考えさせたりして、思考力・判断力・表現力を高める工夫がされている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・「地理にアクセス」では、環境問題や経済問題など身近な問題を取り上げ、学習上の課題を意欲的に追究できるように促している。 ・随所にキャラクターによる吹き出しのコメントがあり、多面的・多角的な考察や深く理解するためのヒントが示されており、各単元の探究課題を解決しやすい工夫がされている。 ・「みんなでチャレンジ」では、グループ活動をしたり、思考ツールを活用したりすることで、主体的に課題を解決する学習の仕方を示している。 	

種目名 社会（地理的分野）	発行者名	教育出版
観点	選定のための参考	
<p>A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が詳しく丁寧に取り扱われており、基礎的・基本的な知識が確実に習得できるよう記述されている。 ・「地理の窓」では、社会の変化による今日的な課題が反映された事象が教材化されており、様々な場面で活用できるよう工夫されている。 ・「地理の技」では、個人やグループの活動を通じて、地理の授業で身に付けるべき技能を修得できるよう工夫されている。 ・本編ページの最後に「確認」が設けられ、学習事項の定着が図られるように構成されている。 	
<p>B 思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を進めながら常に地図を活用でき、多面的・多角的に考察できるように構成されている。 ・各ページに「確認」と「表現」を設け、様々な角度から考察できるように工夫されている。 ・国際理解教育を通して、世界に見られる課題の解決に向けて、選択・判断する学習内容が記載されている。 ・単元末の「学習のまとめと表現」では、課題に対して話し合う内容が用意されている。 	
<p>C 学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の在り方」の単元では、自分たちが暮らす地域の課題を選定し、その課題について調査を行い、解決方法を考えたり、地域に向けて提案したりする学習が設定されている。 ・地域調査の方法を学ぶ学習においては、テーマについてまとめたレポートをクラスで話し合ったり意見交換を行ったりするなど、対話的な学習の場面が設定されている。 ・地域調査では、教え合いや学び合いによる協働学習を通して、多角的に理解したり考えを深めたりして、新たな知識の習得や学習意欲の向上が図られるよう工夫されている。 	

種目名 社会 (地理的分野)	発行者名	帝国書院
観点	選定のための参考	
<p>A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き1時間の紙面が、学習を見通せる「学習課題」「本文」の展開で構成され、基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付けられるようになっている。 ・1時間ごとの授業で学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の展開で構成され、基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付けられるようになっている。 ・世界と日本の諸地域の単元では、各州の地形や気候などの自然環境を人々の生活と関連づけながらつかめるように工夫されている。 ・地域の姿が見える写真やイラストなどの資料が多く、情報を効果的にまとめられるようになっている。 	
<p>B 思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「節の学習を振り返ろう」と「地域の在り方」が関連しているため、世界や日本の課題を自分たちの身の回りの課題と関連付けて考えることができるようになっている。また、「章の学習を振り返ろう」では、「章の問い」に対して、地理的な見方・考え方を働かせて考える学習課題が設定されている。 ・単元ごとの最初の問いを明示することで、見通しをもって課題追究学習に取り組めるように工夫されている。 ・社会的に見られる課題の解決に向けて、理解の助けとなる資料の写真が数多く使用されている。 ・多くの本文ページには、「説明しよう」の問いが設けられており、自分の意見や考えをまとめることによって、言語活動の充実を図れるよう工夫されている。 	
<p>C 学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くのページで写真や地図、グラフなどが大きく見やすく提示されており、興味をもって取り組むことができるようにしている。 ・人々の生活と環境では、衣・食・住など興味をもって課題を解決できるよう工夫されている。 ・「地理プラス」が多く設定されており、地理的事象について多面的・多角的に考察できるようになっている。 	

種目名 社会 (地理的分野)	発行者名	日本文教出版
観点	選 定 の た め の 参 考	
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2ページで、それぞれ学習課題が明確に示されている。 ・「確認」コーナーで基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着をねらいとしている。 ・単元の最後のページに学習のまとめにあたる「ふりかえるコーナー」を設けて、学習の振り返りの助けとなるようにしている。 ・生徒が身に付けることが目指されている技能を繰り返し活用し、その習熟を図れるよう留意している。 	
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を進めながら、常に地図や写真を活用でき、多面的・多角的に考察できるよう構成されており、各ページに「見方・考え方」のコーナーを設け、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせられるよう留意している。 ・「見方・考え方」のコーナーでは、学習課題の解決に向けた手がかりとなる地理的な見方・考え方の例を示している。 ・各ページの「確認」コーナーでは、学習内容の理解を確かにする問いを用意し、「説明しましょう」という問いかけで、自分の意見を伝え合い合意形成に向かわせるように工夫している。 ・単元末の「アクティビティ」では、具体的な課題を自ら調べたり、クラスで議論したりする活動を通して思考を深められるように構成されている。 	
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各ページにある「資料活用」の問いでは、より深く学び、主体的に解決しようとする学習内容が取り上げられている。 ・「地域の在り方」では、社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるよう、地域を構成する具体例や地域の課題が紹介されている。 ・「地域調査の手法」では、自分の言葉で表現し、他者の考えを認めた上で自分の考えを発展させることができる。 	

社会（歴史的分野）

東京書籍

教育出版

帝国書院

山川出版社

日本文教出版

学び舎

育鵬社

調査結果

社会(歴)

	観点A		観点B			観点C	
	知識及び技能		思考力・判断力・表現力等			学びに向かう力・人間性等	
研究調査事項 発行者	学習内容の箇所数 活用できる概念などに関する	我が国の歴史、現代の政治、経済、国際関係等に關する知識を身に付ける学習内容の箇所数	社会的な事象の多面的・多角的に考察する学習内容の箇所数	社会に於ける課題の解決に向けての選択・判断の学習内容の箇所数	思考・判断したことを説明したり、それらに基づいて議論したりする学習内容の箇所数	社会的な事象について、よりよい解決しようとする学習内容を主体的に解決しようとする学習内容を	社会的な事象について、多面的・多角的に学習内容を深く理解させるための学習内容の箇所数
東京書籍	○	○			○		
教育出版	○				○	○	
帝国書院	○					○	○
山川出版社			○	○		○	
日本文教出版		○	○		○		
学び舎	○			○			○
育鵬社	○			○	○		

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	東京書籍
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに「学習課題」を示し、見通しをもって学習が進められるように構成されている。また、「チェック」課題が設定されており、「学習課題」に関連した問い（共通点や理由など）を本文から抜き出し、知識の確認ができるようになっている。 ・章末の「基礎・基本のまとめ」では、章で学習した内容の説明や年表などの資料から知識の確認ができるようになっている。 ・「スキルアップ」「集める」「読み取る」「まとめる」では、歴史地図やイラストなどの資料から、内容を読み取る課題が設定されている。また、「見方・考え方」では、他の時代の資料と比較しながら効果的に調べ、まとめられるよう工夫されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに「トライ」課題が設定されており、時代による比較や特色をまとめるもの、歴史学習をふまえて現代社会における課題について考えるもの、単位時間ごとの学習内容を文章でまとめ説明するものが設定されている。 ・章の最後に「学習のまとめ」があり、文章を効果的に書くためのガイドがキャラクターの吹き出しによって紹介されている。 ・「みんなでチャレンジ」の課題では、グループによる対話などにより、学習内容を深めることができる。 ・「まとめの活動」では、思考ツールを活用し、時代や出来事の特徴を捉える課題が設定されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末「歴史に学び、未来へと生かそう」では、歴史学習を振り返りながら、持続可能な社会の実現に向けて自分たちができることを考える学習が用意されるとともに、テーマ設定やまとめ方の例が紹介されており、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 ・人物や「歴史にアクセス」などのコラム、「もっと歴史」という特設ページがあり、多面的・多角的に歴史を考察できるよう工夫されている。また、その内容が、環境・エネルギーなど教科書を貫く5つのテーマのどれであることを明示している。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	教育出版
観点	選定のための参考	
<p>A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとの「学習課題」には、学習内容のポイントとなる言葉が用いられ、見通しをもって学習できるようになっている。また、「確認」課題が設定されており、その時間の学習を振り返りながら基礎・基本となる語句を確認することができる。 ・章末の「学習のまとめと表現」では、年表や歴史地図から知識の理解について確認することができる。 ・「歴史の技」では、写真や風刺画などの資料から、その時代背景を探究する発問が設定されている。 	
<p>B 思考力・判断力・表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとの「表現」では、単位時間ごとの学習内容を文章でまとめ説明する課題が設定されている。 ・節ごとに「節のまとめ」があり、キーワードを用いて時代の特徴を説明する課題が設定されている。また、章の最後「〇章のまとめ」では、資料を活用し説明する学習がある。 ・各時代の最後には、次時に向けた「時代の変化に注目しよう」という課題が設定されており、次の学習内容に繋がるヒントとなっている。 ・「身近な地域の歴史を調べよう」では、単元の内容についてより詳しく調べ、新たに身近な課題を見つけ、より深い思考につながるよう設定されている。 	
<p>C 学びに向かう力・人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末「歴史を振り返って未来を構想しよう」では、歴史学習をふまえながら現代社会の課題について考え、よりよい未来を開くためにどのようなことができるかを考える学習が用意されている。また、現代社会の課題を考える際の参考として、「SDGsの17の目標」の紹介がされており、主体的に取り組める工夫がされている。 ・「歴史の窓」というコラムや、「身近な地域の歴史を調べよう」「歴史を探ろう」という特設ページがあり、歴史を多面的・多角的に考察するための学習が用意されている。特に「歴史を探ろう」では、中世の女性や子どもの労働、近世の江戸のリサイクルなど、現代社会の課題とも関連するテーマが取り上げられている。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	帝国書院
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・節のはじめには、節を見通した問いが掲載されているとともに、節の問いに対応した「学習課題」が設定され、見通しをもって学習を進めることができる。 ・小单元ごとに「確認しよう」という課題が設定されており、学習内容を振り返り、習得した知識を活用して言語活動につなげることができる。 ・「タイムトラベル」では、文章だけではイメージが難しい内容について、イラストによって視覚的に確認できる。また、タイムトラベルと関連した内容については、本文に注釈として赤字で記載されており、分かりやすい。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとの「説明しよう」では、単位時間ごとの学習内容を文章でまとめ説明する課題が設定されている。 ・時代の区切りごとに、その当時の様子を描いた「タイムトラベル」のイラストがあり、図を比較させて時代の特色を考えさせるようにしている。 ・章の最後では、時代の特色を説明させるポイントを「ステップ」ごとに示し、まとめの文章を書くためのガイドとなっている。 ・「歴史学習のまとめ」では、未来に向けて、現代の課題について考える設定となっている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末「多面的・多角的に構想する—未来に向けて」では、現代社会の課題を一つ選び、歴史学習をふまえながら、その課題解決に向けて何をしていくべきかを考える学習が用意されている。また、その課題の歴史的な経緯を整理したり、最後に80年後の未来に向けてメッセージをまとめたりする活動が設定されており、主体的に取り組めるよう工夫されている。 ・「人物コラム」「未来に向けて」「地域史」「歴史プラス」といったコラムや、「歴史を探ろう」「イラスト世界地図」「多面的・多角的に考えてみよう」といった特設ページがあり、歴史を多面的・多角的に考察するための学習が豊富に用意されている。特にコラム「未来に向けて」では、環境、交流、人権、平和の4つのテーマが明示されていたり、「歴史を探ろう」のページでは関連する事項とそのページが明示されていたりするなど、学習の視点が分かりやすい。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	山川出版社
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに「学習課題」が示されており、単元で学習する内容について理解し、見通しをもって学習が進められるようになっている。 ・本文に記載される人物や語句についての小問題が設定されている。 ・「身近な地域を調べよう」では、調査のスキルを身に付ける方法が細かく提示されている。例えば、テーマを見つける方法や聞き取り調査の注意点など、具体的な場面が示されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに「ステップアップ」課題があり、時代の特色や変化を考えたり、それらを説明する活動が設定されている。 ・各ページにある、写真や地図といった資料には、資料をより深く読み取らせるための「付せん」がついており、特色を確認しやすい。 ・章の最後にはまとめの学習があり、時代を説明する課題が設定されている。 ・歴史学習の最後の「ステップアップ」では、それまでの歴史学習をふまえた上で、現代の課題について考えさせる課題が設定されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・第7章のまとめ「現在の世界はどこへ向かっているのだろうか」では、平和で誰もが暮らしやすい社会をつくっていくために、解決すべき問題点とその解決策について考える学習が設定されている。ここでは、解決すべき問題点の分類例が4つ挙げられており、主体的に取り組めるよう工夫がされている。 ・人物や歴史事象のコラムや、「歴史へのアプローチ」「地域へのアプローチ」「歴史を考えよう」といった特設ページがあり、歴史を多面的・多角的に考察できる学習が設定されている。特に「〇世紀の世界」や「歴史へのアプローチ」では、琉球やアイヌ民族などとのつながりや、日本を諸外国との関係から捉える工夫がされている。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	日本文教出版
観点	選定のための参考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに示された学習課題に対して「見方・考え方」を示し、見通しをもって学習することができる。 ・「資料活用」では、写真や絵画などの資料を読み取る学習活動が設定されている。資料は比較的大きいサイズになっており、読み取りがしやすい。 ・各章末「学習の整理と活用」の「アクティビティ」では、課題についての振り返りを行い、それぞれの時代の特色をまとめることができる。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに学習課題を考える「深めよう」という課題があり、時代の特色を考えたり、比較して考えたりすることができる。また、「確認」課題が設定されており、時代の特色やその時代が与えた影響などを文章でまとめ説明することができる。 ・章のはじめに、時代の特色や違いを資料を用いて考えることができる課題が設定されている。また、各章末の「アクティビティ」では、内容を深めるポイントをステップで示しながら文章にまとめる課題が設定されている。 ・「チャレンジ歴史」では、資料をもとに対話などで学習を深める課題がある。 ・歴史学習の最後では、「歴史との対話を未来に生かす」というテーマで、過去の歴史から現代の課題を考える設定がされている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末「『歴史との対話』を未来に活かす」では、現代社会の課題を取り上げ、歴史を振り返りながらその課題の成り立ちや変遷、それらの課題解決に向けた先人の取り組みについて考える学習が設定されている。ここでは、3つの課題例とテーマ別のさくいんが示されており、主体的に取り組めるよう工夫されている。 ・「女性史コラム」「歴史+α」「地域に学ぶ」「先人に学ぶ」といったコラムや、「歴史を掘り下げる」といった特設ページがあり、歴史を多面的・多角的に考察する学習が設定されている。特に、生活の向上や文化の発展に取り組んだ先人、各時代の女性の姿といった人物に焦点をあてることで、歴史を捉えるといった工夫もされている。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	学び舎
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに追究する学習課題を焦点化し、本文を読んで理解するためのめあてが設定されている。また、民衆、特に子どもや女性など歴史の裏に隠れがちな人々の視点で本文が書かれ、時代の特色がまとめられている。 ・「章をふりかえる」では、年表や歴史地図から知識に関する内容を確認することができる。 ・「歴史を体験する」では、フィールドワークをイメージした調査活動の方法がまとめられている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・「章をふりかえる」では、その時代の特徴となるものをあげ、時代の特色を考える問いがある。 ・歴史学習最後のまとめでは、それまでの学習をふまえながら、現代における国際社会の課題について日本がどうすべきかを考える課題が設定されている。 ・各部、各章の最後には、「ふりかえり」「まとめ」の学習があり、時代の特色を説明したり、出来事について考えたりする課題が設定されている。 ・「歴史を体験する」では、実際にその当時の様子を再現し、体験から考える学習が設定されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・第6部の学習のまとめ「歴史を現代とつなげて考えを深めよう」では、歴史の諸課題について、現在から見て「乗り越えられた課題」か「現在も課題となっていること」かについて分けながら考える学習が設定されている。ここでは、友達と意見交換する活動があり、その例を提示することで主体的に取り組めるよう工夫されている。 ・多くのコラムが設けられ、歴史を多面的・多角的に考察する学習が設定されている。特に歴史の舞台に焦点をあてた「フォーカス」というコラムは、見開きの最初に配置され、時代背景を理解したうえで、学習を進められるよう工夫されている。また、歴史を多面的・多角的に捉えるためのコラムでは、見開きの最後に配置されており、紙面の構成が工夫されている。 	

種目名 社会（歴史的分野）	発行者名	育鵬社
観点	選 定 の た め の 参 考	
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元ごとに追究する学習課題を示し、見通しをもって学習が進められるようになっている。 ・「学習のまとめ」では、年表や歴史地図で知識に関する内容を確認することができる。 ・歴史人物カードを作成する課題が設定され、インターネットなどの情報を活用した調べ学習の方法が提示されている。 	
B 思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・小单元の最後には、学習課題について、時代の特色を比較したり、特徴を考えたりする課題が設定されている。 ・現代史を振り返る学習では、人口推移を扱うグラフを用いて、人口推移や年齢別割合から日本の課題を考えさせる問いが設定されている。 ・章の最後には「学習のまとめ」があり、時代を大観し、話し合う学習が設定されている。また、歴史学習の最後では、それまでの学習をふまえ、現代の日本の課題について考える課題が設定されている。 ・「歴史のターニングポイント」では、各時代の大きな出来事について、グループでの話し合い活動を行い、理解を深める課題が設定されている。 	
C 学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末「歴史学習のまとめ」では、主体的に考える学習活動として、歴史で学んだことを将来どう生かしていきたいかを400字程度にまとめる課題が設定されている。 ・「人物クローズアップ」「歴史ビュー」「歴史ズームイン」などのコラムや特設ページがあり、歴史を多面的・多角的に考察する学習が設定されている。特に、「このころ世界は」のページでは、日本の歴史と関わりの深い外国の動きについて取り上げ、世界と日本の主な出来事を比較する年表が示されるなど、日本を諸外国との関係から捉える工夫がされている。 	